

マがアクセサリー細胞の存在下で TSST-1 に反応して IL-2 を産生する。③ TSST-1 による T ハイブリドーマの活性化は MHC クラス II 分子の存在が必須である。④ Paraformaldehyde で固定された細胞もアクセサリー活性を保持されている。⑤ 細胞表面上の特異的 TSST-1 結合がマウス T 除去脾細胞とクラス II 陽性細胞で観察されたが、T 細胞や T ハイブリドーマではまったく検出されなかった。

以上の結果より、TSST-1 はアクセサリー細胞表面上のクラス II 分子に物理的に直接結合して活性化のシグナルとして T 細胞に提示されると考えられる。

12. 抗 OKT3-二次抗体陽性腎移植患者での BMA 031 投与に関する基礎的検討

(腎臓病総合医療センター外科・泌尿器科)

早坂 勇太郎・高橋 公太・寺岡 慧・東間 紘・阿岸 鉄三・太田 和夫

Orthoclone OKT3 (OKT3 と略す) は多くのステロイド抵抗性拒絶反応を抑制し、その強い免疫治療効果が評価された。しかし、本剤はヒトに異種抗原性を示し、T 細胞を強く活性化するマイトジェン作用も報告されている。このため、抗 OKT3-二次抗体産生の症例では、その治療効果が顕著に減少することもあり、投与期間や投与回数も限られてくる。今回、治療用 OKT3 (CD3/IgG_{2a}) ならびに BMA 031 (TcR 定常域に特異的/IgG_{2b}) に FITC 蛍光色素を標識し、FACS-can を用いた OKT3-T 細胞反応阻害試験より、OKT3 投与患者血清中の抗 OKT3-二次抗体の特異性を検討した。

この結果、BMA 031 前処置 T 細胞では OKT3 の反応性が低下し、BMA 031 による TcRcapping に伴う CD3 分子数の減少が推察された。また抗 OKT3-アイソタイプ二次抗体陽性の患者血清で、BMA 031 の反応性が低下したことより、IgG_{2a}(OKT3) と IgG_{2b}(BMA 031) サブクラスの類似性も推察された。

13. 無症候性キャリアー由来末梢血リンパ球の HBs 抗原遺伝子導入細胞に対する細胞障害機能の検討

(消化器内科)

春田 郁子・鴨川由美子・鈴木 義之・中村 哲夫・孫 野青・石黒 典子・磯野 悦子・山内 克巳・小幡 裕

我々は HB ウイルス関連抗原を表出する細胞に対する B 型慢性肝炎患者(B-CH)末梢血リンパ球の細胞障害機能を検討し、その末梢血中に HBV 関連抗原と

MHC クラス I 抗原を同時に認識するキラー T 細胞 (CTL) が存在することを報告してきた。今回、無症候性キャリアー (ASC) 末梢血リンパ球の HBs 抗原特異的 CTL 活性を測定し、B-CH の CTL 活性との比較検討を行った。

方法：(1) 標的細胞；Myeloma cell (ARH 77) に遺伝子導入により HBs 抗原を表出する細胞を作製し標的細胞とした (ARH S6)。 (2) Effector 細胞；ASC、B-CH の末梢血リンパ球を用いた。 (3) 測定；⁵¹Cr を用いた細胞障害試験で CTL 活性を測定した。

結果・考察：ASC の S6 に対する CTL 活性は (5.6 + 3.4%) で B-CH (22.0 + 4.8%) に比し有意に低かった。今回の我々の結果は、肝炎を発症する CH と、発症しない ASC はともに HBs 抗原に対し抗体産生は認められないものの、HBs 抗原に対する CTL の活性の違いがあり、HBV 感染による肝炎発症に HBs 抗原特異的 CTL が重要な役割を果たしていることを示唆している。

14. 胃癌患者の宿主側要因一特に細胞性免疫能の立場から一

(第二病院外科)

小川 健治・勝部 隆男・稲葉 俊三・渡辺 俊明・矢川 裕一・梶原 哲郎

胃癌患者の宿主側の要因として、細胞性免疫能をとりあげ、治療成績との関連につき検討した。対象は治癒切除胃癌で、術後、BRM 療法として OK-432 を皮内投与で用いた 123 症例である。細胞性免疫能のパラメーターとしては、末梢血リンパ球の T cell subsets, PHA 幼若化反応、血清 IAP 値、皮膚反応 (PPD, Su-PS) を用い、術前ならびに術前術後のパラメーターの変動と治療成績についてみた。

1. 術前 PPD 皮膚反応陽性例、血清 IAP 値陰性例ならびに術後 6 カ月の Su-PS 皮膚反応陽性例の治療成績は良好であった。

2. OK-432 を用いた BRM 療法を行う場合、とくに Su-PS 皮膚反応の術前後の変動を把握することが重要と考えられる。

15. 抗リン脂質抗体症候群妊婦の臨床的検討

(産婦人科)

雨宮 照子・安達 知子・武田 佳彦
(母子総合医療センター)

高木 耕一・中林 正雄・坂元 正一

抗リン脂質抗体症候群妊娠 10 例について、その臨床像と抗リン脂質抗体価 (ACA) および凝固線溶系動態